

# 瑞雲

明日を拓く 直方鉄工青年会 第74号 平成13年2月22日

## 第36代会長 矢山 真人



皆様、今年度の直方鉄工青年会の活動に際し、御理解、御協力を賜り、誠に有難うございました。本年は21世紀幕開けの記念すべき年となりますが、依然として私共を取り巻く環境は、混沌としています。21世紀はどのような世の中になるか全く想像もつきませんが、足元を見つめ希望と勇気を持って、新世紀に臨みたいものです。さて、私共の今年度の活動を振り返ってみますと、21世紀につながる大きな出来事がありました。

先ず1つ目の出来事は、私共の親団体であります直方鉄工協同組合の百周年記念事業に参加させて頂いたことです。記念事業を通じて、あ

らためて100年の重みを感じる事が出来ました。親団体の組合が、1世紀活動を続けてこられたわけですから、我々若手の集まりである直方鉄工青年会も、元気に50年、100年と歴史を刻んで行かねばと痛感致しました。

2つ目の出来事は、3年前より取り組みました2つの「ものづくり」、ソーラーカー並びに自ビルが完成したことです。直方鉄工青年会初の試みでしたが、会員一人一人の努力により無事完成する事が出来ました。これから直方鉄工青年会が「ものづくり」を中心とした活動を行うかどうかは判りませんが、会の活動に対して一石を投じた事は間違いありません。

明るい話題の無い昨今ですが、直方鉄工青年会は、21世紀も元気に活発に活動を行っています。本年も皆様方の温かい御支援、御協力を賜りたく宜しく申し上げます。



# 祝 直方鉄工協同組合創立100周年

我々、鉄工青年会の親団体であります、直方鉄工協同組合（内藤博俊理事長）の創立100周年記念式典が昨年11月17日（金）午後3時より直方市畑の直方いこいの村で行われ、麻生太郎衆議院議員、麻生渡福岡県知事、有吉威直方市長ほか関係者約200人の方々にご出席いただきました。

式典で内藤理事長は「日本経済の振興に寄与してきました。次なる100年は国際的な視野に立った展開が必要です。研究・開発力を養い新分野への進出に取り組む。」と挨拶を行いました。

た。引き続き組合功労者の表彰などが行われました。その後、谷 伍平北九州美術館長（前北九州市長）を講師に招き『都市は連帯する』と題しまして講演が行われました。

会場には青年会事業の一環として取り組んで参りました、家庭用地ビール製造キットと鈴鹿サーキットで行われたレースに出場したソーラーカー「成金号」を展示しました。式典後の祝賀会では我々が造った“自”ビール「鉄麦（てつむぎ）」で乾杯していただきました。



## 21世紀のものづくり

副会長 矢野 清一郎



本年度は副会長という役職を頂きその上、春の衆議院選挙、夏の鈴鹿ソーラーカーレース出場、秋の直方鉄工協同組合100周年記念式典という具合に非常に忙しく過ごして参りましたらいつのまにか21世紀になっていた様な気が

しています。青年会活動に於いては初の試みでもある『ものづくり委員会』を担当し、ソーラー

カー・自ビールと二つのプロジェクトを会員が各自の能力を発揮して結果はどうあれ何とか成功裡に終了することが出来たのも関係各位の皆様の御支援の賜物とこの紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

我々製造業に関わる人間としてこの『ものづくり』とは21世紀においてどうあるべきかを今後の青年会活動を通して考えて行きたいと思っておりますので、先輩諸氏の皆様には何かとご迷惑をお掛けするかも知れませんが、引き続きましてのご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

# 一年を振り返って

事業副委員長 ソーラーカー担当 木原由光



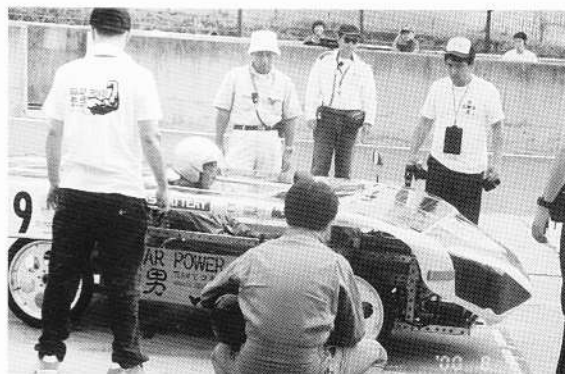
一年を振り返ってみますと、まずソーラーカーの製作を行って、本当に良かったと強く思います。それは、メンバー全員でどういう車を作成するのかなどの検討や、連日の深夜作業、そしてギリギリ完成してレースに出場できた事など、社会人である私たち

がなかなか体験できないことをやらせてもらい、とても楽しい思い出ができたことはもちろんですが、一番良かったと思うことは、このづくりについて考える最高の場を持てたことです。

今回の事業委員会の仕事は、自ビルド、ソーラーカーを製作するのとは別に、「ものづくり」について、全員で考え直してみることにありました。本日の目的は、これであったと考えています。

どうしてそう考えるのかといいますと、ものづくりは日本が最も得意とするところであり、我々の生活を支えているのも、この技のおかげです。ところが、「なぜ日本人が、ものづくりに関して優れているのか？」これほど重要な事について考える機会はありませんし、興味が無い人の方が多いと思います。しかし、少なくとも製造業に携る者の集まりである我々としては、その重要性や大切さを十分理解しておかなければいけないと思います。

今回、そのことについて考える機会が持てたことに大変満足していると同時に、十分に活かしきれなかったのではないかと反省もしています。今後ともこのような事業を、新しい世紀に



も結んでいってほしいと思います。

最後に、暖かい目で見守り応援して下さいました。会員の方々、本当にありがとうございました。

あとがき

## ●ソーラーカーができるまで

ソーラーカーができるまでということで製作過程と今回感じたことを簡単に書きましたので、一読下さい。

今回の製作過程については、次のような方法で計画を進めました。

- ①調査点検→
- ②仕様決め→
- ③構想図作成→
- ④組図・部品図・電気回路図作成→
- ⑤部品製作・購入品購入→
- ⑥組付・配線→
- ⑦調整→
- ⑧完成

「DREAM CUP ソーラーレース鈴鹿2000」出場の結果報告

2000年8月4日(金)、5日(土)、6日(日)、に三重県鈴鹿市稲生町の鈴鹿サーキットで行われました「DREAM CUP ソーラーレース鈴鹿2000」のENJOY CLASS (パネル出力480W以下、鉛バッテリー使用) 4時間耐久レースチーム「鉄男(てつまん)」としてソーラーカー「成金号」で出場しました。

〈レーススケジュール〉

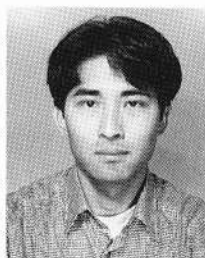
- |            |             |       |
|------------|-------------|-------|
| 1日目 (8月4日) | 8:00~10:00  | 選手受付  |
|            | 9:00~14:00  | 公式車検  |
|            | 18:30~20:15 | 前夜祭   |
| 2日目 (8月5日) | 10:30~11:30 | 公式予選  |
| 3日目 (8月6日) | 7:20~11:20  | レース決勝 |
- 8月2日(水)の夕方にソーラーカーを鈴鹿へ発送しました。翌日3日(木)のお昼に出場者が出発し、当日の夜に鈴鹿市内に到着。4日(金)、レース1日目の朝に鈴鹿サーキットで車を受け取り、組立し、車検を受けました。車検には車長・車幅・車重、安全、スラローム、ブレーキ制動距離の検査がありましたが、FIA (国際自動車連盟) 主催のレースという事もあり、レースの公平さ、安全確保のため厳しいものでした。サーキットを走行するためのドライバーも国際C級以上、国際ソーラーカーのライセンスが必要です。

2日目予選、3日目レース決勝といろいろなトラブルも発生しましたが、なんとかレース完走を果たし、その日の夜帰ってきました。レースは参加車両51台中34位 (完走47台) の結果でした。

御支援、御声援して頂いた皆様に感謝しまして、ご報告とさせていただきます。

# 新入会員の紹介

## 直方歯車製作所 石松 慶裕



皆様、はじめまして。  
直方歯車製作所、石松慶裕と申します。

西暦2000年という節目の年に新入会員として迎えていただき大変うれしく思っております。

今年は、直方鉄工組合が100周年という記念の年でもありました。これに伴い、鉄工青年会で行われたソーラーカーと自ビール作りの二つの事業は、大変印象に残りました。

私は三年前に故郷直方に戻り、鉄工業に就いたのですが、これ以前は鉄工の事に関して全く無知でした。

ですから、会員の手だけで設計から完成まで

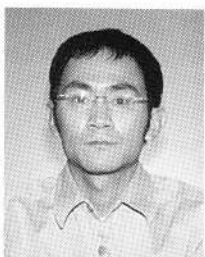
作り上げられたソーラーカーには大変驚かせれたと同時に、先輩会員の頼もしさを感じました。自ビール作りは、直方鉄工組合の100周年記念式典で完成品が出来るまでの過程で、少しずつでも着実にビールの味に近づいていくのを見て、ビール作りに対する情熱と難しさを感じました。

この一年間でも、この二つの事業を筆頭に、直方鉄工青年会に参加させていただき、先輩会員の皆様がいかに情熱と愛情を持って会を運営しておられるかを実感しました。

今年は新入会員として、矢山会長をはじめ先輩会員の皆様に本当にあたたかく迎えていただきましたが、ほとんど役に立てなかったことが残念でなりません。

しかし来年からは21世紀となり、新しい時代の直方鉄工青年会を盛り上げていくお手伝いが出来るよう、一所懸命頑張ろうと思っています。

## 内藤鍛造所 内藤 晃一



新たな世紀の幕開けを皆さん如何お過ごしでしょうか。

私は、去年の六月に、この鉄工青年会に入会させて戴いた内藤 晃一と申します。日はまだ浅いですが、様々な先輩方にお会いする事が出来て大変嬉しく思っているしだい

であります。

私が内藤鍛造所に入社したのは、平成11年の6月でした。それ迄は鉄の事はおろか、自分の家が何をしているのかも分かっていませんでした。前の会社は道路会社でしたし、大学は林業を学んでいました。鉄に関する知識と言え、硬い重い錆びるぐらいでした。鍛造とは何

か、鉄にはこんなにも種類があるのか、熱処理と言うものは何なのだろう。そして、鉄に関する分野が多岐に渡ることにも驚きと戸惑いを、じずにはられませんでした。

自分の貧弱な鉄に関する知識や、業界に友人のいない心細さから来る将来への不安に悩まされていた頃に、青年会への入会を勧められて、会の方のお話を詳しくお聞きした所、自分と同じような境遇の方たちがおられ、公私に渡り新睦を深め、又、お互いの技術を学ばれているという事らしいので、私も入会させて頂きました。

未だ、数えられる位しか皆様方とは接しておりませんが、自分にプラスに成ることばかりで大変嬉しく思っております。

今後とも、諸先輩方達を見習い立派な人間になり、会を発展させると共に、後続の者を育てる道標になりたいと思います。